

巻頭言

社会インフラとしての特養を守れるか

～ 迫る老朽化と「機能的寿命」を延ばす視点 ～

田中 雅英 (たなか・まさえ)

東京都高齢者福祉施設協議会 会長
社会福祉法人大三島育徳会・三交会 理事長

社会福祉学博士、全国老人福祉施設協議会 副会長。座右の銘は「研究を政策へ」。都市部の特養建て替え(改築)・大規模改修の壁を破る、当該時に利用者を受け入れる「促進施設」創設に尽力。また、差し押さえを受けるなど破綻寸前だった特養の事業再生を成し遂げた。学術的知見と経営手腕の両輪を駆使し、現場と政策の両面から福祉施設の課題解決に邁進している。

ページ
3Dia Report
①

シルバー人材センターでの就業がフレイル発生リスクを軽減

～ 75～84歳の全国追跡調査の結果より ～

石橋 智昭 (いしばし・ともあき)

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長

千葉大学大学院修了。博士(医学)(慶應義塾大学)。亀田総合病院(専任研究員)、慶應義塾大学医学部(助教)を経て2011年から現職。専門は、老年学・ヘルスサービスリサーチ。財団では、「ケアの質のアウトカム評価」「高齢者の安全就業に関する実証研究」「生きがい就業の介護予防効果」を担当。

4

Dia Report
②

ダイヤ財団シンポジウム

「100歳までのライフプラン2

— 自分らしい人生のための福・禄・寿 —

先瀬 信成 (さきなだ・のぶしげ)

ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部長

東京大学医学部保健学科卒業、同大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程修了。1992年明治生命保険相互会社(当時)入社、資産運用、医事調査、ヘルスケア事業、団体年金等の業務を担当。社外派遣・出向は三菱銀行ロンドン支店、日本確定拠出年金コンサルティング株式会社等。ダイヤ財団企画調査部次長を経て、2024年4月より現職。財団では、機関誌Dia Newsの編集などを担当。

8

財団
研究紹介地域高齢者が「自分らしく住み続けられる家」を評価する
指標の開発 — 住環境アクセシビリティ評価指標の実施可能性の検証 —

土屋 瑠見子 (つちや・るみこ)

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員

2017年東京大学大学院医学系研究科博士後期課程修了。博士(保健学)。医療法人鉄蕉会亀田メディカルセンター(理学療法士)、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構(主任研究員)を経て、2024年4月より現職。現所属では、「科学的介護のための介護事業所向け研修ソールの開発」、「高齢者のAging in placeに寄与する住環境の研究」等を担当。専門は、環境老年学、公衆衛生学、リハビリテーション。

16

Dia
Information

18

表紙撮影：吉羽健二郎氏「そののけそののけ お馬が通る(千葉県印西市)」(2024年4月撮影)

※吉羽氏は、千葉県我孫子市で写真愛好家を対象に「448 SCHOOL」という写真教室をご夫婦で運営されています。